

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成 30 年 7 月 29 日（日） 10 時～11 時 30 分

2. 開催場所：宮城県大崎市・吉野作造記念館

3. 関係団体等：吉野作造記念館

4. 役割

講師：小玉 重夫（東京大学大学院教育学研究科教授、日本学術会議会員）

挨拶・司会：町村 敬志（一橋大学大学院教授、日本学術会議会員）

5. 概要：

題目：「選挙について考えて見よう～日本学術会議サイエンスカフェ in 吉野作造記念館～」

概要： 今回のサイエンスカフェは、日本学術会議第一部の夏季部会を宮城県仙台市で開催する機会を利用し、同県内の大崎市・吉野作造記念館で実施することになった。同記念館は、地元出身の政治学者で日本における民主主義の確立に多大な貢献を成した吉野作造の功績を展示するとともに、現代における民主主義の実現と主権者教育のため教育・普及事業を熱心に展開してきている。カフェには大崎地域の4つの高校の生徒、計19名が参加した。

小玉先生のお話は、18歳選挙権の歴史的な背景から始まった。最近の国政選挙の動向から、争点が明確であれば投票率は上がり選挙の結果が政治の方向性を変えるきっかけになっていることがわかり、したがって「現実の政治的・社会的問題を取り上げ、関心を持たせたり、判断力を養成するような教育」が大切であることが、わかりやすく語られた。

カフェの後半では、大崎市で市長選挙が実施される場合を想定して、あなたが候補者の政策責任者だったらどんな政策を考えるか、という課題が示され、4つのグループに分かれてプランを立てるといって、アクティブラーニングが行われた。20分ほどの短い時間であったが、人口定住のための医療費無料化や公共交通網の充実、原発事故に伴う農業系の汚染廃棄物をめぐる処理問題など、幅広い視点からさまざまな政策が提案された。異なる学校の生徒どうしということもあって初めはすこし緊張した様子だったが、地元の話題を織り交ぜた小玉先生の説明と質疑が積み重なるうちに議論が深まり、最後の発表においてはそれぞれが地元の課題を自由な発想で語り合う様子が、とても印象的であった。

6. 参加人数：

講演者等：2名

参加者：生徒 19名、引率教員 4名、吉野作造記念館 3名、地元メディア 1名

7. 特記事項：本プログラムを写真入りで紹介する新聞記事が、『河北新報』2018年7月30日朝刊に掲載された。